

太田川再生に係るこれまでの経緯

太田川産アユ・シジミの資源産懇談会
事務局

これまでの経緯

太田川再生プロジェクト検討委員会
(平成18年8月～平成20年3月)

提言の主な内容

- ・森林関係
森林の保全、森林の保水機能と防災機能 など
- ・ふれあい関係
体験プログラムの整備、市民活動の情報交換ネットワークづくり など
- ・環境、水量・水質関係
太田川の流量等とアユ・カキ、河川海域の水質と底質 など

提言

【第一期】太田川再生フォローアップ委員会
(平成21年4月～平成23年3月)

中間報告の内容

- ・適切な流量の確保の検討が必要
- ・維持流量の増加方法の検討が必要
- ・変動流量の検討が必要
- ・水力発電の削減についての議論が必要
- ・科学的データに基づく評価のための調査が必要

中間報告

【第二期】太田川再生フォローアップ委員会
(平成23年7月～平成25年3月)
太田川再生フォローアップ懇談会*
(平成25年4月～8月)

太田川再生方針
(太田川再生に係る最終報告書)

- ・都市開発に伴い、森林の荒廃やダム of 整備等が進み、太田川の水質や水量が大きく変化した。
- ・太田川の環境の変化は、広島湾の環境にも影響を与え、カキの成育不良の原因になっているという意見が上がった。

太田川の現況を調査し、その再生策を検討するため、「太田川再生プロジェクト検討委員会」が立ち上げられた。

「太田川再生プロジェクト検討委員会」では、当初、森林保全、環境保全、ふれあいの場の検討など太田川が有する多面的機能からの再生策を議論。

「太田川再生プロジェクト検討委員会」から太田川の流量、河川環境、アユ等に関する提言が出され、「太田川フォローアップ委員会」では、その提言に基づく検討がなされた。

最終的に、水産振興から太田川再生を目指す方向に集約された。

太田川再生方針とは…

- ・太田川再生に係るこれまでの検討経緯を取りまとめたもの。
- ・これまで検討された水産振興施策を整理し、取組の対象を太田川を代表する「アユ」と「シジミ」に限定した。

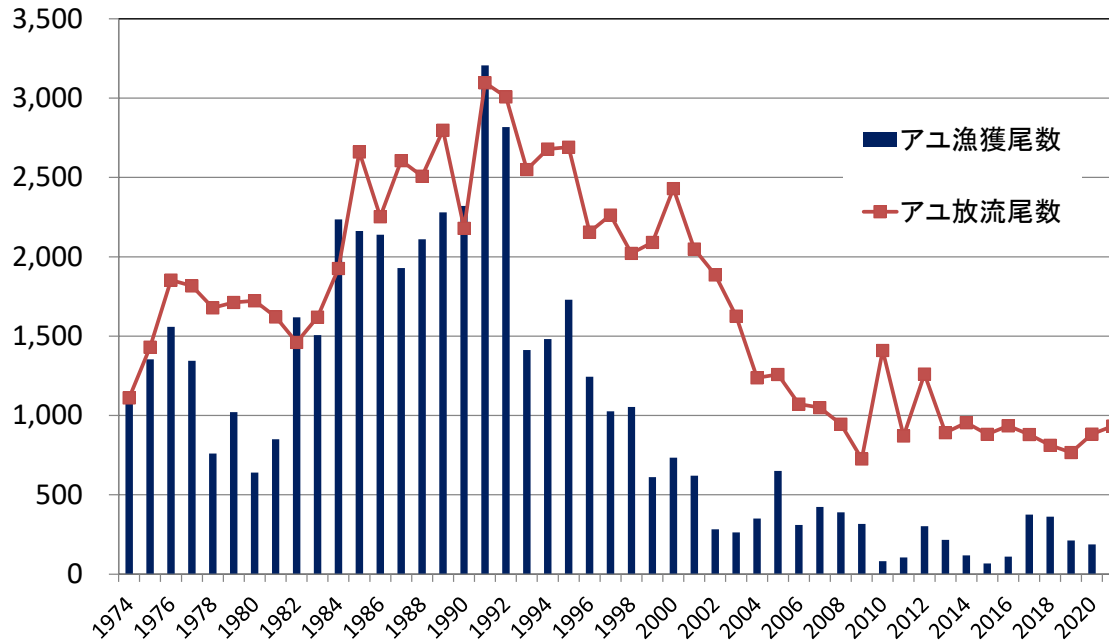
基本理念：

種苗放流に依存した漁業から脱却し、本来の資源の再生産システムを復元して、天然資源を増大させる

太田川再生方針は、平成25年度に策定

太田川におけるアユ・シジミの漁獲量について

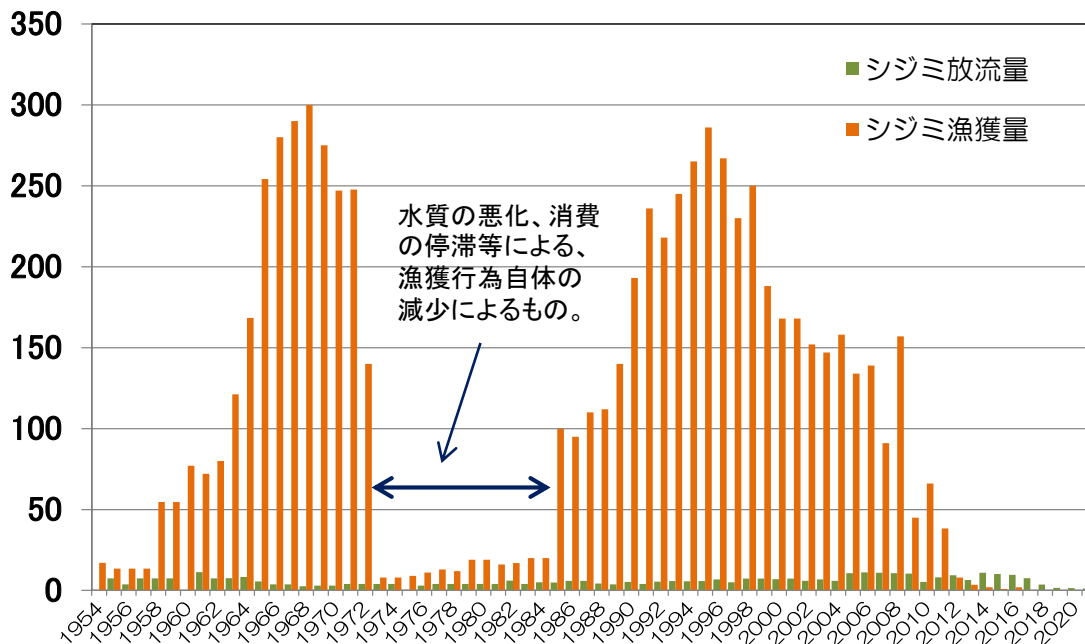
太田川漁協管轄内
アユ漁獲尾数・放流尾数
(太田川漁協の集計値)



最盛期: 約300万尾

令和3年の漁獲尾数
約10.2万尾
(漁協集計値)

広島市内水面漁協管轄内
シジミ漁獲量・放流量
(漁獲量・農林水産統計値)



最盛期: 約300 t

令和3年の漁獲量
約68.9kg
(漁協集計値)

平成30年以降は
ジョレン堀りを禁漁

太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会

太田川再生方針をただ策定したままにするのではなく、その後の取組及び施策の実現に向けたフォローアップを行うことで、より具体的かつ効率的に太田川再生へ向けたアプローチを行う。



「太田川再生方針」に基づく取組の具体的な方法の検討や効果検証の結果に基づく方針を議論する場が必要。

特に複数の関係者が方法等を調整する必要のある中期的、長期的な方策に基づく取組の検討には不可欠。

平成26年度～

太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会の立ち上げ

太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会及び同水管理部会 枠組み(平成30年度まで)

		太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会	水管理部会
構 成 員	行政等：	国土交通省太田川河川事務所 広島県水産課 広島県河川課 (公財)広島市農林水産振興センター 広島市農林水産部水産課	国土交通省太田川河川事務所 広島県水産課 広島県河川課 (公財)広島市農林水産振興センター 広島市農林水産部水産課
	学識経験者：	松田 治 氏 (広島大学名誉教授) 浜口 昌巳 氏 (瀬戸内海区水産研究所干潟生産グループ長 二枚貝専門) 高橋 勇夫 氏 (たかはし河川生物調査事務所代表 アユ専門)	松田 治 氏 (広島大学名誉教授) 浜口 昌巳 氏 (瀬戸内海区水産研究所干潟生産グループ長 二枚貝専門) 高橋 勇夫 氏 (たかはし河川生物調査事務所代表 アユ専門)
	漁業関係者：	太田川漁業協同組合 広島市内水面漁業協同組合	水利権者： (オブザーバー) 中国電力株式会社 広島県企業局水道課 広島市水道局技術部設備課
検 討 内 容	○ アユ・シジミを増やすための短期・中期的方策に基づく取組の効果検証		○ アユを増やすための長期的方策に基づく取組の実施に向けた協議

太田川再生方針に基づく取組(平成30年度まで)

太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会

水管理部会

アユを増やすために

【短期的方策】

- 余剰種苗の放流
- 産卵場の維持・造成

【中期的方策】

- 禁漁期間、区間の設定や漁法の制限
- 晩期親魚放流
- 授精卵放流

シジミを増やすために

【短期的方策】

- 種苗放流
- 食害対策 (旧:ネット被覆による食害防止)

【中期的方策】

- 操業日の制限や禁漁区間の設定
- 稚貝の育成に適した浅場の整備

アユを増やすために

【長期的方策】

- 堰のゲート操作等による太田川放水路の仔稚魚の育成場としての活用
- 産卵期の仔魚の流下を促進する水運用
- 産卵適地へ親魚の流下を促進する水運用
- 遡上期の稚魚の遡上を促進する水運用

長期的な方策については、
具体的に以下の運用を検討。

- 高瀬堰の運用
- 祇園水門・大芝水門の運用

枠組みの見直し(平成30年度)

太田川再生方針を策定し、5年目の節目となる平成30年度に懇談会の枠組みを見直した。



太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会と同水管理部会を統合し、長期的な方策に係る検討も懇談会で進めることとした。

また、アユを増やす取組については、天然アユの遡上数(太田川漁協管轄の河川内: **91万尾**)を具体的な目標値として、設定した。

令和元年度以降の取組体制について

第2次 太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会

構成員

行政等：	国土交通省太田川河川事務所 広島県水産課、河川課 (公財)広島市農林水産振興センター 広島市農林水産部水産課
学識経験者：	松田 治氏(広島大学名誉教授) 濱口 昌巳氏(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 漁業生産グループ長 二枚貝専門家) 高橋 勇夫氏(たかはし河川生物調査事務所代表 アユ専門家)
漁業関係者：	太田川漁業協同組合 広島市内水面漁業協同組合
水利権者： (オブザーバー)	中国電力株式会社 広島県水道課 広島市水道局設備課

- ### 検討内容
- ・短期・中期的な方策に基づく取組のフォローアップとその報告
 - ・長期的な方策に基づく高瀬堰の運用の継続的な運用に向けた検討
 - ・長期的な方策に基づく祇園水門・大芝水門の試験運用に向けた検討

取組等の推進計画（令和元年～）

令和元年度以降は、以下の計画に基づき、取組を推進している。

年度	令和元年度～令和5年度	令和6年度
懇談会の開催	○（年1回）	未定
短期的、中期的な方策	経常的な取組として実施	
短期的、中期的な方策のフォローアップ	方策のフォローアップ	
長期的な方策 （高瀬堰の運用）	試験運用の継続 試験運用を実施しながら、 継続的な運用を検討	継続的な運用の可否を決定
長期的な方策 （祇園水門・大芝水門の運用）	試験運用の検討 塩水遡上に配慮した運用の 検討、放水路の環境調査等	継続的な運用の可否を決定
長期的な方策 の効果検証	効果検証調査	未定